

めぐみイエス・キリスト教会

2020年12月13日(日)第二週アドベント礼拝
週報「通算第536号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌75「神の御子は」	p. 102
【交読文】	No.2詩篇第8篇	p. 879
【賛美Ⅱ】	新聖歌78「荒野の果てに」	p. 106
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	新聖歌77「きよしこの夜」	p. 105
【聖書朗読】	ルカの福音書2章1節～7節(2017新約p. 110上段)	
【礼拝説教】	《住民登録》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【ルカの福音書2章1節～7節】

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥス(アウグスト)から出た。

2:2 これは、クリニウス(クレニオ)がシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

2:3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。

2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアと共に登録するためであった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

●ポイント1.「メシアが生まれる場所」とは？

※ミカ書5章2節「ダビデの町とは」 (旧約p.1586下段)

5:2「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたから私のためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

※イザヤ書11章1節「エッサイの根」 (旧約p.1185上段)

11:1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。

●ポイント2.「ヨセフとマリヤ」の系図から分かることは？

※マタイの福音書1章6節～16節「ヨセフの系図」 (新約p.1上段真中)

※ルカの福音書3章23節～32節「マリヤの系図」 (新約p.114下段)

3:23 イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、ヨセフの子と考えられていた。ヨセフはエリの子で、さかのぼると、

3:24 マタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、

3:25 マタティア、アモス、ナホム、エスリ、ナガイ、

3:26 マハテ、マタティア、シメイ、ヨセク、ヨダ、

3:27 ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シェアルティエル、ネリ、

3:28 メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、

3:29 ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、

3:30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エルヤキム、

3:31 メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、

3:32 エッサイ、

●ポイント3.「住民登録」が行なわれた意味は？

※伝道者の書9章1節前半「神の御手の中に」 (旧約p.1149下段)

9:1 まことに、私はこの一切を心に留め、このことすべてを調べた。正しい人も、知恵のある者も、彼らの働きも、神の御手の中にある。

※コロサイ人への手紙1章13節「御子の支配の中に」 (新約p.401下段)

1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移して下さいました。

◎先週のメッセージの概要【ヨセフの決意】

《イスラエルでは、当時、結婚は両親同志が決めたのです。婚約は結婚と見なされ、一年間はそれぞれの両親のもとで暮らし、結婚について様々な教えを受け、またお互いに見つめ合う期間が設けられていました。

その期間中、受胎告知が御使いガブリエルによってマリアに知らされたのです。マリアはすぐに、従姉妹エリサベツのもとに向かいます。おそらく出発する前に、マリアはヨセフにその事実を伝えたと思われます。

さて、「ヨセフは正しい人」であったと書かれています。これは「律法」を重んじる者であったということです。モーセの律法はこう命じています。『ある男と婚約中の処女の娘がいて、ほかの男が町で彼女を見かけて一緒に寝た場合、あなたがたはその二人をその町の門のところに連れ出し、石を投げて殺さなければならない』と。そしてもう一つは、『人が妻をめとり夫となった後で、もし、妻に何か恥すべきことを見つけたのなら、離縁状を書いてその女に渡し、彼女を家から去らせなければならない』と。

マリアがエンカレムに行っている間、ヨセフは非常に悩み苦しんだに違いありません。そして出た結論は、去らせることでした。そんな時にヨセフは夢を見ます。預言的な夢を見た者の中で、一番有名な者は、兄たちによってエジプトに売られたヨセフであることは、間違いありません。

マリアの夫となり、またイエスの育ての父になるヨセフが、そのヨセフと同じ名前であったことは、決して偶然ではありません。ヨセフが夢を、ないがしろにしないからこそ、御使いが夢を通してヨセフに語ったのです。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアを妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自身の民をその罪からお救いになるのです。」ヨセフは決意しました。マリアを妻に向かい入れることを。ベツレヘムに行って住民登録をすることを。八日目に長子として、聖別することを。そして御使いがつけた名、イエスを自分の子として育てることを。》

◎お知らせ

※次回礼拝は12月20日(日)教会において行ないます。2021年1月3日(日)礼拝と、1月6日(水)聖書勉強会と祈り会は、お休みします。